

朝霞地区医師会 地域包括ケア支援室便り

No.5

令和2年8月号



支援室長就任あいさつ

皆さま、こんにちは。この度朝霞地区地域包括ケア支援室長に就任しました滝澤です。実は初代も私が勤めさせていただいておりましたので、2年ぶりの再任となります。本支援室は、超高齢社会を迎え、独居高齢者や老老介護状態の世帯が急増するなか、地域内で医療と介護を切れ目なく提供出来る様にサポートすべく誕生しました。揺籃期には、埼玉県内の在宅医療提供体制充実支援事業として予算はついたものの、医療と介護とに明るい肝心の人材確保と、執務する場所の確保に苦労したのを覚えています。場所は4市に依頼し、各市の候補地を当時の浅野修医師会長と見学させていただき、現在の和光市総合福祉会館に決まりました。コーディネーターは本事業の要ですが、専任を迎えられたのは、海江田室長時代まで待つ必要がありました。現体制はコーディネーター常勤と非常勤の各1名、事務員1名、それに私と門田副室長という発足当時を思えば、嘘の様に恵まれた環境になりました。精一杯勤めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

副室長
門田 隆太郎

事務員
佐藤 圭子

室長
滝澤 義和

NEW

4月1日からコーディネーターとして着任しました西村陽子です。皆様と共に頑張っております。よろしくお願いいたします。

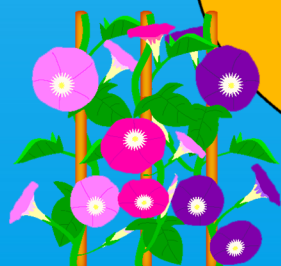
コーディネーター
菅田 恵子

発熱外来PCRセンターの設置について

埼玉県では新型コロナウイルス感染対策として、埼玉県医師会・郡市医師会と連携協力し、発熱外来PCRセンターを設置しました。朝霞地区の先生方もこの事業へご協力頂いています。

発熱外来PCRセンターは、保健所を介さず、直接病院や診療所など地域の医療機関から感染の疑いがある患者を受入れることができるほか、PCR検体の採取を集中的に行うため、迅速な対応が可能になります。

但し、PCRセンターは連携先登録をしている地域の医療機関からの紹介に限り利用が可能です。



在宅医療連携拠点コーディネーター研修会からの情報

去る7月17日、27日に県医療整備課主催のWeb会議で、「在宅医療に特化した新型コロナウイルス感染症対応に関する振り返り」について県内の在宅連携拠点コーディネーターで情報交換を行いました。主な内容をお伝えします。

2週間の待機期間

★感染者が出ていない医療機関であっても、有料老人ホームに入所するには「どこかで2週間滞在してから」と言われた。

★病院退院支援時、通所介護の受入れは2週間自宅待機してから可能と言われた。

★コロナ対応医療機関から退院した在宅療養患者について、退院後2週間は対応できないという事業所が多かった。

★PCR検査を受けていたことなど利用者（家族等）の情報が後からわかり、もし感染していたらと怖くなるケースがあった。

★新しい事業所を導入する場合、ケアプランの見直し等が必要になるので訪問介護だけでは対応できない。

★物資の供給が医療・看護より遅かった。

ヘルパー

ケアマネージャー

★個人事業所では、地域の応援体制など連携する仕組みは今のところない。備えは必要だが、実績請求と法令にも左右することなので、国や県市町村で方策を決めないと難しい。

★主任介護支援専門員部会の連携ツール(ライン)で情報共有し、対応を検討している地域があった。

★ケアマネ会のアンケートから、第2波が来た時の事業所の対応、シミュレーション方法を具体的に知りたいという意見があった。

訪問診療医

★機能強化型在宅療養支援診療所では、フォローしあえる体制になっている。

訪問薬剤師

★サポート薬局という仕組みがあり契約時にサポート薬局名を記入することになっている。

その他

★同居家族にコロナ疑いがある在宅療養患者について、ショートステイにもあつたが受入れせず、在宅療養支援ドの申し出も難しい状況にあつた。介護者が濃厚接触者となった要介護者はどこで、隔離できないのか。受け入れできない施設や病院が選定されていると対応がスムーズ。

★5月初旬のころ、かかりつけ医への通院利用時タクシー会社が拒否、民間救急介護タクシーの情報提供をしたが、1回30万円というところもあり利用できなかった。

★在宅酸素に使う精製水が手に入らないという相談があった。

訪問看護

★MCSを利用して、協力体制の約束の他、感染防止対策の物品の交換や、訪問リハビリ等の業務による業務所別の時間的制約を盛り返す旨の契約提供もあった。

★訪問看護師の家族の会社で陽性者が出たため、事業所を10日間閉鎖、他の事業所に依頼した。

★訪問看護ステーション連絡協議会の情報から、近隣の訪問看護ステーションで協定を結んだ。

★それぞれの状態、ステーションの状況、サポーターの有無など、近隣のステーションと互いに情報を共有しあっている。

現場では、多くの事案が発生しており、地区においては各職能以ネットワークづくりがなされている状況がありました。

当地区の状況はどうだったのでしょうか？何か情報がありましたらお知らせください。第2波・3波に向け、そして今後の感染症対策に向けて振り返りと体制づくりが急務な課題と考えます。

